



## The Olympics is the wedding of sport and art.

この夏の話題として印象に残るものといえば、やはりリオデジャネイロオリンピックがあります。特に今回は日本人選手の活躍が素晴らしく、その姿から自分を信じる力や、新たな一步を踏み出す勇気をもらった人も多かったと思います。

オリンピックでは全ての方が勝者になれるわけではありません。むしろ敗者の方が沢山います。だが、敗者の姿から学べることも少なくありません。その1つに陸上女子5000Mでの出来事があります。このレースで、あるアメリカの選手が別の国の選手と接触して一緒に転倒します。先に立ち上がったのはアメリカの選手ですが、この選手は転んだ相手を置き去りにせず、一緒に倒れた相手選手を助けます。だが、そのアメリカの選手も怪我をしており、お互いに助け合いながら最下位でゴールします。試合後のインタビューで、アメリカの選手は「助けたのは本能。私が助けたというより私の中の神様が助けたという感じ。一瞬のことだったけど、世界中で共鳴を呼ぶなんて」というコメントを残しました。

今回のオリンピックに出場できなかった水泳の北島康介選手にも、次のような話があります。北島選手が無名の頃、彼は平井コーチに「金メダルを取りたい」と申し出ます。その時、コーチから「多くの人に好かれて『力になりたい』と思われる選手でなければ、世界と勝負できない。練習と同時に、挨拶や生活態度（心）を大事にきなさい」といわれたそうです。

オリンピックの精神を表す言葉に「The Olympics is the wedding of sport and art」というものがあります。オリンピックの創始者、フランスのクーベルタン男爵の言葉であり、「オリンピックはスポーツとアート（美しさ）の融合である」という意味です。つまり、オリンピックでは競技することと心の美しさの両方が大切ということです。まさに、この2人のアスリートの心は、オリンピックの精神そのものともいえるのではないのでしょうか。

いよいよ2学期がスタートします。自分で決めた目標に積極的に挑戦すると同時に、心を磨きながらより良く成長する、そんな2学期にして下さい。

